



僕の家は手づくりがいっぱい!

1歳になる息子の善仁よしひとが座っているのは、パパ手づくりの椅子です。他にも我が家には手づくりの物がたくさんあります。棚はもちろん、何とベビーベッドまでパパが頑張ってくれました。そのほか、私の母と祖母がつくってくれたベビー布団をはじめ、洋裁が得意な母はパジャマや洋服をつくり、編み物が得意な義母はセーターなどをつくってくれました。

そんな周囲の愛情に比例してか、すくすくと大きく育った善仁も今ではすっかりいたずら盛り。せっかくパパがつくってくれた椅子も、すぐに踏み台になってしまいました。椅子を使って机によじ登っては、いたずら三昧の毎日です。いつになったら椅子は座るものだと認識してくれるのでしょうかね。



牧野地
太田美弥子さん
29歳

花に感謝の気持ちを!

私の家の周りには竹林があり、梅・柿・ミカンなど数多くの果物類の木が植えられており、緑豊かなとてもよい環境です。



庭はあまり広くありませんが、四季折々の花が絶えないよう計画を立てて栽培します。すぐ咲き終わる花より長い間楽しめる花が好きです。

サフィニア・ペチュニアは、春から秋まで咲きつづけ、もう種がこぼれ、今は新しい苗が育っています。今年は、風船かずらの成長がよく車庫の屋根の上まで伸び、種がいっぱいできましたので、欲しい方に差し上げます。冬から春はパンジー・ミニキンセンカ・アネモネが色よく花壇を飾ります。



長谷町の鈴木幸子さん

庭木草花を一生懸命育てると、必ず答えてくれます。そんなとき、きれいに咲いてくれてありがとうと花に感謝します。

KOGA 万華鏡

田中正造と古河町民

秋の企画展に向けて その3

谷中村は渡良瀬遊水地計画により地内の買収が進められ明治39年に廃村、栃木県藤岡町に合併されます。なおも堤内に残留する16戸の強制破壊が行われますが、このとき栃木県は鷹見古河町長に打ち壊しの人夫を出すよう要請しますが断固これを断っています。

併は両者にとって公益になると訴えています。田中正造は大正2年9月4日、谷中村復活のため奔走中に病に倒れ亡くなります。73歳でした。本葬儀は佐野の厄除け大師で有名な春日岡山惣宗寺で盛大に執り行われました。葬儀委員5百

正造からみると当時の古河町民は谷中村問題にそれほど熱心とはいえませんでした。それで、もさまざまに正造を支援した町民たちがいました。とりわけ駅前で旅館を営んでいた田中助次は古河で最も信頼されてきました。正造は助次を「神に入るの道に進みつつあり」と評しています。



田中正造翁石宮図面 / 宮内喜八郎氏所蔵

その後、関係者の協議により5か所に分骨されました。旧谷中村に分骨の際は古河駅前の田中座で神式による分葬儀が行われました。この折、古河の石材店で石宮が作られ現在は藤岡町の田中霊祠の本殿に安置されています。ひとには谷中のおじやんと呼ばれ、ときには胡散臭くみられてもいましたが、百年後の今日まで存在感のある人物といえます。

強制破壊の半年後、旧谷中の有志21名により古河町との合併を希望する請願書が古河町長に出されています。それによると古河藩領時代から水利水害、農工商業、人情風俗と関係が深く、谷

(同企画展は11月24日まで開催中)古河歴史博物館学芸員 鷲尾 政市